

令和6年度以降 学科到達目標(評価指標) 専門的能力【幼児保育学科】

※レベルを飛び越えて評価できません。「Level 1」に達していない場合は、「Level 1未満」とします。

※レベル評価では、該当する全ての内容を達成していなければなりません。

コンピテンシ	到達目標	ベンチマーク 初歩的 Level1	マイルストーン 萌芽的 Level2	マイルストーン 達成的 Level3	キャップストーン 模範的 Level4 以上
I (態度・志向性)	【保育者としての素養】 1) 教育的愛情と情熱を持ちあわせている。 [教育的愛情・情熱] 2) 関係法令を理解し、それらを遵守した保育活動を展開することができる。 [法令遵守] 3) 成長のための意欲をもち、学び続けることができる。 [向上心・向学心]	□子どものよさや可能性を認め、個を尊重することの重要性を理解している。	□子どもの可能性を認め、子どものよさを見つけようと共感的・受容的に関わることができる。	□子どもを共感的・受容的に受け止め、子どもとの信頼関係を築こうと努めている。	□子どもを共感的・受容的に受け止め、よさや成長に気づきながら、子どもとの信頼関係を築くことができる。
		□社会生活において法令を遵守している。教育・保育に関係する法令があることを知っている。	□保育者として守るべき職業倫理と法令を理解している。	□高い倫理観をもち、法令を遵守した教育・保育を展開できる。	□高い倫理観をもち、法令を遵守した教育・保育を継続的に展開できる。
		□保育者として必要な資質・能力を身につけるために、学ぶ意欲をもち、学ぼうとしている。	□保育者として必要な資質・能力を身につけるために、自分で勉強したり、先輩や教員、友達に相談したりしている。	□身につけた資質・能力を実践場面で活用し、その結果から自己課題を見出し、その改善に向けた取り組みをおこなえる。	□外部の研修会や研究会に参加するなど、自己課題に応じた実践や研究を継続的にこなせる。
II (知識・理解)	【子どもを理解し指導・援助する力】 1) 子どもの特性や個性を把握することの重要性を理解し、その手法を身につけている。 [子ども理解] 2) 子ども理解にもとづいて、個と集団に応じた指導・援助をすることができる。 [個と集団に応じた指導・援助] 3) 特別な支援を必要とする子どもを理解し、支援することができる。 [特別支援教育]	□教育・保育における子ども理解の大切さを理解している。	□子どもの多様性を理解して、自分なりの子ども理解を作ろうという意欲がある。  □発達に関する正しい知識を持っている。	□複数の観点から子どもを理解することができる。  □個々の発達の状況をとらえることができる。	□指導の経緯、職員間の情報共有、家庭からの情報などを総合的にとらえて、子どもを理解することができる。  □子どもの発達を予測し、実際の様子と照らし合わせながら、自分の子ども理解を継続的に見直すことができる。
		□子ども理解にもとづいて、個と集団に応じた指導・援助をすることの重要性を理解している。	□個と集団の関係の発達に関する正しい知識を持っている。	□子ども理解にもとづいて個と集団の関係をとらえ、個と集団に応じた指導・援助ができる。	□仲良いグループとクラス全体など、複数のレベルの集団に目を向け、個と集団の関係を総合的にとらえて必要な指導・援助ができる。
		□幼稚園・保育園等に特別な配慮の必要な子どもがいることを知っている。	□特別な支援を要する子どもに対する基本的な知識・技能を身につけている。	□特別な支援を要する子どもの障害の特性を理解して、一人ひとりの教育的なニーズに応じた合理的配慮を理解することができる。	□特別な支援を要する子どもの障害の特性に応じて、個別の支援計画や指導計画を作成し計画的・組織的に対応することができる。
III (技能・表現)	【保育を展開し評価する力】 1) 要領・指針の理念と内容にもとづいて、保育の計画を立案することができる。 [構想力] 2) 保育技術を用いて、子どもの実態に応じた保育を展開することができる。 [展開力] 3) 保育を適切に評価して、計画の改善をおこなうことができる。 [評価力]	□要領指針の理念と内容を知っている。	□要領指針を踏まえた環境構成や保育展開のイメージを持つことができる。	□要領指針の理念と内容を十分に(80%程度)理解し、子どもの発達に沿った適切な短期の指導計画を立案できる。	□要領指針の理念と内容、園の教育課程にもとづいた適切な長期の指導計画を立案できる。
		□保育の基盤となる保育技術(手遊び、読み聞かせ、幼児曲のピアノ伴奏、ペープサート、パネルシアター、造形遊びなど)があることを知っている。  □子どもの実態に応じた環境構成や関わりの重要性を理解している。	□保育の基盤となる保育技術(手遊び、読み聞かせ、幼児曲のピアノ伴奏、ペープサート、パネルシアター、造形遊びなど)を幅広く身につけている。  □環境の構成や子どもへの関わりに必要な基礎的な指導技術を獲得している。	□保育技術(手遊び、読み聞かせ、幼児曲のピアノ伴奏、ペープサート、パネルシアター、造形遊びなど)を子どもたちの前でいつでも実践できる。  □基礎的な指導技術を生かした環境の構成や子どもへの関わりができる。	□さまざまな保育技術(手遊び、読み聞かせ、幼児曲のピアノ伴奏、ペープサート、パネルシアター、造形遊びなど)を、子どもたちが楽しめる工夫をしながら実践できる。  □子どもの実態に応じた環境の構成や子どもへの関わりができる。
		□録をとる重要性とその方法を理解している。  □保育を評価する意義と評価方法を理解している。	□クラスや子どもの様子、保育者のかかわり等について適切な方法で記録を取ることができる。  □記録等にもとづいて、子どもの活動状況や自分の指導過程を振り返り、保育の評価をおこなえる。	□保育の評価をとおして改善点に気がつき、継続的に指導計画や保育の改善をおこなえる。	□実践後の保育の評価に加えて、教材や指導方法の研究にも力を注ぎ、両者の相乗効果によって継続的に保育を改善することができる。
IV (行動・経験・創造的思考力)	【連携・協働する力】 1) 園組織へ参画する意識を持ち、任された職務を遂行することができる。 [組織理解と参画] 2) 危機の未然防止と早期発見、危機を察知した際の迅速な対応ができる。 [危機管理] 3) 保護者や地域と積極的に関わり、連携・協働した対応をおこなうことができる。 [保護者・地域の連携、子育て支援]	□一般的な園の組織や分掌(役割割)、担任の役割と職務内容を理解している。	□任された職務を遂行しようとする意思がある。	□組織の一員としての自覚を持ち、任された職務を遂行することができる。	□組織の一員としての自覚を強く持ち、報告・連絡・相談をしながら、自分の職務を確実に遂行することができる。
		□疾病、感染症、アレルギー疾患等の予防と発生時の適切な対応の重要性を知っている。  □園内外における危機の未然防止と発生時の適切な対応の重要性を知っている。	□疾病、感染症、アレルギー疾患等に対処するために必要な知識や技能を持っている。  □園内外における危機発生時に対処するために必要な知識や技能をもち、持っている。	□疾病、感染症等、アレルギー疾患等の発生時に、指示を仰ぎながら対応できる。  □危機発生時に、指示を仰ぎながら対応ができる。	□疾病、感染症等、アレルギー疾患等の発生時に、適切に対応できる。  □園内外における危機発生時に、状況を把握し的確な指示を出しながら、適切に対応できる。
		□保護者や地域と連携・協働した「共育」の大切さを理解している。	□教育・保育における連携先としてどのような機関・職種があるかを知っている。  □子どもの生活や遊びの様子を保護者に伝えることができる。	□保護者や地域の関係機関と連携する際に留意すべき点を知っている。  □保護者の思いを受容的に聞く方法を身につけている。	□保護者や地域の関係機関、近隣校(保幼小中高)と信頼関係を築きながら、連携・協働して教育・保育ができる。  □保護者と子どもについての情報交換を通して良好な関係を築き、相談しやすい雰囲気を作ることができる。